

## 城北学区を盛り上げよう

## ～何もないとは言わせない！私たちの城北学区～

本単元で育成する資質・能力

知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体的に学ぶ力  
他者とのかかわる力 社会貢献力 自己形成力

## 単元について

## 1 生徒観

本学年の生徒は、小学校での総合的な学習の時間において、それぞれの小学校区の自然や歴史等について、ゲストティーチャーを招いたり、インターネットで検索したりして調べ、模造紙にまとめたり、紹介ビデオを作成したりする学習を行っている。

福山市について知っていることを交流した際、城北学区の中では福山城、歴史博物館、美術館、人権平和資料館などの文化施設や自分が生活している小学校区についてよく知っている生徒が多かった。しかし、隣接する小学校区については知らないことが多かった。

また、課題解決をしようとする（表1の①）こと、情報を整理・分析する（表1の③）意欲は高いが、自ら情報収集する（表1の②）こと、進んで考えを伝える（表1の④）意欲は低い。このことから、本校で設定した「育てたい資質・能力及び態度」については、「主体的に学ぶ力」と「表現力」に課題があると言える。社会貢献力（表2）については、自ら地域をよりよくしたいと考えている生徒は9割以上（①+②+③）いるが、主体的に行おうとする生徒は3割程度（①）にとどまっている。以上のことから、やはり「主体的に学ぶ力」について課題があることが言える。

表1 「課題発見・解決学習」に係るアンケート結果

質問項目	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
①授業では、解決しようとする課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思います。	52.7%	38.9%	5.9%	2.5%
②授業では、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	23.8%	42.7%	25.5%	8.0%
③授業では、比較・分類・関連付けして、何が分かるかを考えています。	41.0%	38.5%	16.3%	4.2%
④授業では、自分の考えを積極的に伝えていきます。	39.1%	29.9%	23.7%	7.3%

表2 社会貢献力に係るアンケート結果（①の方がレベルが高い）

評価基準	生徒の割合
①地域や社会に対して疑問や課題意識を持ち、どうすれば地域や社会がより良くなるかを考え、自分ができることを考え、自らの責任で判断し、行動（実行）することができます。	31.9%
②普段から、地域や社会をよりよくするために、「こうしたい」とか「こうなってほしい」と考えるようにしています。	49.7%
③自らの意志で、ボランティア活動等に参加し、地域や社会に役立とうとしています。	13.2%
④まだ③の段階に達していない。	5.2%

## 2 単元観

本単元は、『福山市を盛り上げる』という大きなテーマから、自分たちで知っていることを交流し、企画を考えていく中で、自分たちが生活している『城北学区』に焦点化していき、パンフレットという制作物を活用して、情報を整理し、まとめ、城北学区の魅力を工夫して伝えるということを実行していくという単元である。

本単元の中では、生徒の課題となっている「表現力」と「主体的に学ぶ力」を身に付けさせるために、以下の3つの場面を仕組む。1つ目は、同級生や地域の人々との意見交換などの自分の考え

を表現する場面である。2つ目は、パンフレットをまとめる際に、新聞社の出前授業を取り入れることで、情報のまとめ方など、プロの技を学び実践する場面である。3つ目は、施設等で働く方々や街の人々など、様々な人と直接かかわる場面である。また、単元の学習を進めることにより、普段から地域や社会に対して疑問や、どうすれば地域や社会がより良くなるかという課題意識を持たせる。さらには、自分ができることを考えさせることで自らの責任で判断し、行動することができる生徒を育成し、『自己探究』の単元や2学年以降の『地域理解・社会貢献』の単元の学習につなげていく。

このように、自分の考えを表現したり、地域の人々と触れ合ったりしながら、社会貢献に向けて「課題発見」「課題の設定」「課題解決」の活動を行うことを通して、他者のために自分なりにできることを考え、主体的に行動できる生徒を育てるとともに、課題解決の過程において、筋道を立てて考え、その考えを進んで相手に伝えることで、協働して課題を解決する楽しさや充実感を味わってほしいと考え、この単元を構想した。

### 3 指導観

指導にあたっては、課題となっている「表現力」と「主体的に学ぶ力」を高めるために、特に次の2つに留意して学習を進めさせる。1つ目は、学習形態である。基本的には生活班で担当場所を決めて活動し、学級単位で授業を行うが、必要に応じて担当する小学校区単位で学習を進める。調べたり考察したりしたことを、各小学校区において共通認識を持ちやすい生徒同士で交流しあうことで、よりわかりやすいまとめに活かすことができ、考えを伝え合う必然性が生じるため、「表現力」を高めることができる。また、小学校区ごとのリーダーや編集係を設定することで、自分たちの活動として意識し、「主体的に学ぶ力」も身に付けさせることができる。2つ目は、学校外の多様な立場の人々とふれあう場面を設定することである。地域の人々の願いなどの生きた情報を収集することで、課題をより身近なものとしてとらえさせ、進んで情報収集する意欲を高めることができ、「主体的に学ぶ力」を身に付けさせることができる。さらに、地域の人に自分の考えを伝える場面を設定することで、場面に応じたコミュニケーションの取り方を学ばせながら、「表現力」を高めることができる。

それぞれの学習過程における指導のポイントは、次の通りである。

「課題の設定」の場面では、福山市について知っていることを交流し、盛り上げるための企画を考える中で、自分たちが生活している身近な地域のことについてあまり知らないということを自覚させる。

「情報収集」の場面では、各小学校区の公民館長など地域の方の話を聞き、小学校区全般についての知識を習得した後に、関係施設や地域に出て調査を行うことで、様々な視点から施設の魅力や課題を見い出させる。

「整理・分析」の場面では、パンフレットの第1案を作成した後、新聞社の出前授業により、わかりやすくまとめるための視点を与えていただき、より魅力的なものになるよう仕上げさせる。また、企画書の作成では、実現の可能性と効果の有無を、座標軸を使って比較・検討させる。

「まとめ・創造・表現」の場面では、パンフレット、企画書の提案を行う。地域や関係施設の方にゲストティーチャーとして来ていただき、専門家からのアドバイスをしていただく。

「実行」の場面では、作成したパンフレットを配布したり工夫して掲示したりするなど、自分たちで考えた盛り上げるための企画を行わせる。

「振り返り」の場面では、毎時間の成果・課題を基に行うことで、単元を通してどのような力が付いたのか等、具体的に振り返らせる。また、これまでの学習過程で行ったゲストティーチャーや他のグループの生徒などの他者からの評価も活用して、振り返らせる。

単元を通して、「課題発見・解決学習」の6つのサイクルを繰り返すことで、考えを深めさせていく。

## 単元の目標

単元の活動を通して、城北学区の魅力を見出し、様々な人に紹介するためにはどうすればよいかを考え、提案・実行することができる。

## 育てたい資質・能力及び態度における評価規準

資質・能力		評価規準
知識・技能	知	①城北学区の施設等について理解を深めることができる。
思考力・判断力・表現力	思	①調べた情報から必要な情報を抽出し、自分なりにまとめることができる。 ②現状を踏まえ、これから何をすべきかを自ら決定することができる。 ③相手に伝えたい内容を精選し、分かりやすく伝える工夫をすることができる。
主体的に学ぶ力	主	①自ら課題を見出し、課題解決の方法を考えることができる。
他者とのかかわる力	他	①仲間と話し合いながら、考えを深めることができる。 ②課題を解決するために、地域の人と話し合うことができる。 ③課題を解決した成果を地域の人と共有できる。
社会貢献力	社	①地域の魅力を発信するために、何をすべきかを考えることができる。
自己形成力	自	①課題解決に向けて、前向きにチャレンジすることができる。 ②単元を振り返り、城北学区について自信を持って紹介することができる。

## 単元と評価の計画

### 1 年間の指導計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
単元	「城北学区を盛り上げよう」～何もないとは言わせない！私たちの城北学区～（40時間）						「職業ロードマップをつくろう」（10時間）					
	地域理解・社会貢献						自己探究					

### 2 単元と評価の計画

小単元名	学習過程	時数	学習内容 学習活動	評価規準 (評価方法)	教科との関連
「城北学区を盛り上げよう」	情報の収集	1 2	○地域の文化や施設についての交流 ・単元ガイダンスを聞き、小学校で学んだことを交流する。(1) ・福山市について知っていることを交流する。(1)	【思-③】 (行動観察) (自己評価表)	
	整理・分析	3 4	○企画の検討 ・他地域の町おこし企画等を参考にして、福山市を盛り上げるための新たな企画を考える。(2)	【思-②】 (行動観察) (自己評価表)	⇒【英語】 福山市の好きな場所の紹介
	課題の設定	5 6	○企画の具体化 ・パンフレットを活用して地域を盛り上げるための具体的な方法を考える。(2)	【主-①】 (行動観察) (自己評価表)	

情報 の 収集 ・ 分析	7 ～ 9	○企画の焦点化 ・調査範囲を城北学区に絞り込んで考える。(1) ・地図に書き出しながら交流する。(1) ・調査したいテーマを考える。(1)	【思-②】 【他-①】 (行動観察) (自己評価表)	
課題 の 設定	10 ～ 13	○調査場所の決定と準備 ・決定した調査場所について、家庭でのインタビューやインターネットを活用した事前調査の交流を行う。(1) ・質問項目の検討を行う。(1) ・電話の仕方を学び、事前連絡を行う。(1) ・行動計画を作成する。(1)	【思-③】 【主-①】 【他-①】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【国語】 手紙の書き方 敬語の使い方
情報 の 収集	14 ～ 19	○調査の実行 ・学区の4公民館での聞き取り調査を行う。(3) ・調査場所での現地調査を行う。(3)	【知-①】 【他-②】 (行動観察) (自己評価表)	⇔【社会】 身近な地域の 調査
整理 ・ 分析	20 ～ 22	○調査内容のまとめ ・調査内容のまとめを行う。(2) ・礼状を書く。(1)	【思-①】 (行動観察) (自己評価表)	
	23 ～ 28	○パンフレットの作成 ・タイトルや写真、記事の配置などを考え、パンフレットを作成する。(3) ・中国新聞の出前講座により、相手に伝えたいことをわかりやすく伝えるための工夫を学ぶ。(1) ・パンフレットの修正を行う。(2)	【思-③】 (行動観察) (自己評価表)	
	29 ～ 31	○企画書の作成 ・訪問施設を盛り上げるための企画を考える。(3)	【思-②】 【他-①】 (行動観察) (自己評価表)	
まとめ ・ 創造 ・ 表現	32 ～ 34	○パンフレット、企画書の提案 ・地域の方にゲストティーチャーとして来ていただき、企画の提案を行う。(1)【本時】 ・いただいた意見をもとに、企画書の修正を行う。(2)	【社-①】 (行動観察) (ワークシート) (自己評価表)	⇔【国語】 ポスターセッ ションをしよ う
実行	35 ～ 37	○企画の実行 ・企画実行のための役割分担・準備をする。(1) ・企画の実行をする(2)	【他-③】 【自-①】 (行動観察) (自己評価表)	
振り 返り	38 ～ 40	○単元の振り返り ・学区内の小学4年生と、学習したことの交流をすることで、自分たちの活動についてアピールする。(2) ・学習前と学習後において、どのような力が付いたか、地域に対する考えがどのように変わったかを振り返る。(1)	【自-②】 (行動観察) (ワークシート) (自己評価表)	

## 本時の学習展開

### 1 本時の目標

企画のアイデアについて具体的に提案し、実現の可能性と効果の有無を吟味して考えることができる。

### 2 本時の評価

評価規準	評価基準	
地域の魅力を発信するために、企画を考えることができる。 (自己評価表) 【社-①】	A	現状を分析し、地域の魅力を発信するための具体的な計画を踏まえた企画を考えることができる。
	B	現状を分析し、地域の魅力を発信するための企画を考えることができる。
	C	地域の魅力を発信するための企画を考えることができる。

### 3 学習展開 (32限目 / 40)

学習過程	課題の設定	情報の収集	整理・分析	まとめ・創造・表現	実行	振り返り
	学習活動		指導上の留意点		評価規準 (評価方法)	
導入	1 本時のめあてと学習の流れを確認する。 ①本時の活動の見直しをもつ。 ・クラスの仲間や地域の方に発表する。 ・実現できるかどうか、効果があるかどうかを考える。		①パンフレットと企画を発表する手順や視点等を示す。 ・パンフレットを拡大して発表する。 ・発表のための役割分担をしておく。 ・発表しない班は、ワークシートに記入しながら発表を聞く。		【社-①】 地域の魅力を発信するために、企画を考えることができる。	
展開	2 パンフレットを紹介し、企画を提案する。 ①発表を聞き、地域の魅力について新たな気づきや良かった点をワークシートに記入する。 ②企画の実現の可能性や、効果を踏まえて気づきや意見をワークシートに記入する。  ③各班の発表に対して、気づきや意見を発表する。 ④ゲストティーチャーに、地域住民の視点から企画についての意見をいただく。		①城北学区について知らない人の立場でも考えさせる。 ②実現の可能性、効果の有無について吟味する際に指標となる項目を提示する。 実現→中学生にできるかどうか 金銭面、人手、時間、技術、施設の許可 等 効果→人が集まるか ③よりよい企画を実現するために、考えを交流させる。 ④次時からの修正に活かせるように、重要だと思うことをメモさせる。			
まとめ	3 本時のまとめをする。 ①本時の振り返りをする。 ②次時の予告を聞く。		①地域の方の意見をふまえ、自分たちの企画と比較して考えさせる。 ②次時で企画の修正・準備を行うことを確認する。			